

令和5年度学校自己評価(アンケートの集計と考察)

長野県稲荷山養護学校

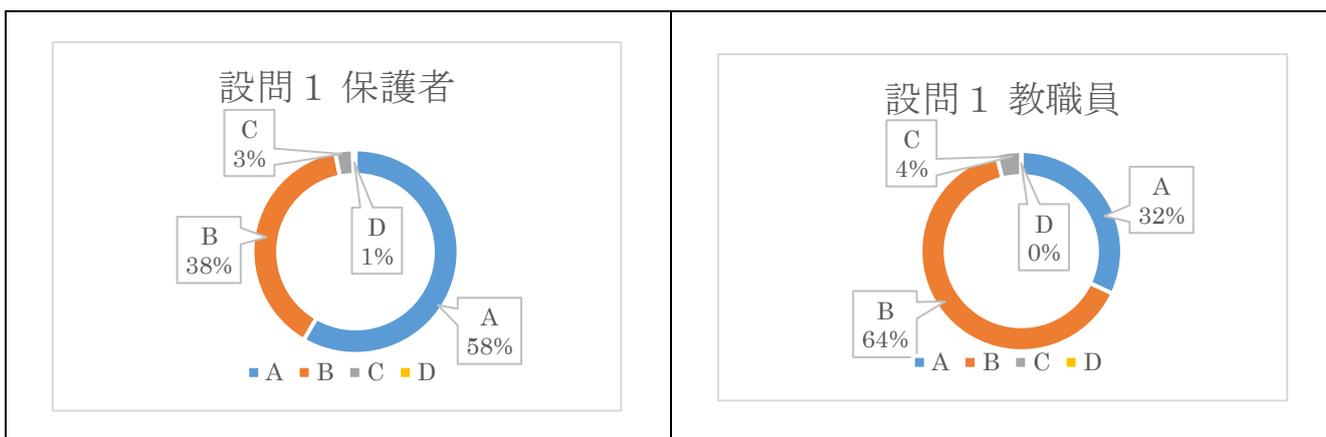
1 回収率 (※ 人数は児童生徒数)

	小学部			中学部			高等部			分教室			寄宿舎			大学部			合計		
	人数	提出	%	人数	提出	%	人数	提出	%	人数	提出	%	人数	提出	%	人数	提出	%	人数	提出	%
保護者	107	86	80	91	75	82	86	71	83	21	18	86	24	24	100				329	274	82
教職員	56	53	95	47	47	100	43	38	88	6	6	100	16	16	100	15	15	100	183	175	96

評価基準 A: と思う B: だいたいと思う C: あまりそう思わない D: そう思わない

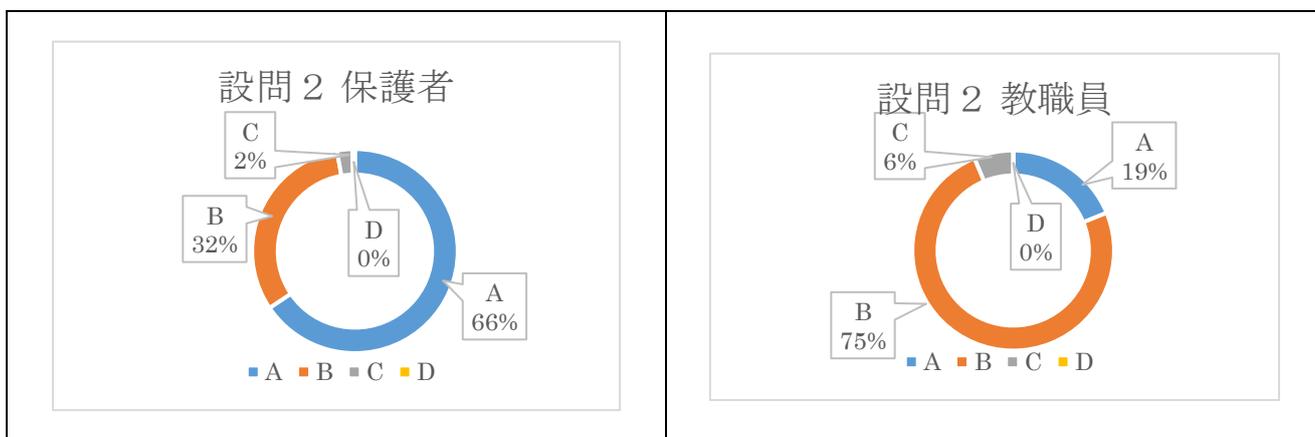
2 項目ごとの保護者・教職員間比較 (※ 設問は保護者アンケートの内容)

設問1 職員は、生活年齢や障がい特性に配慮し、特別支援教育の専門性を活かした教育を行おうと努力していると思いますか。



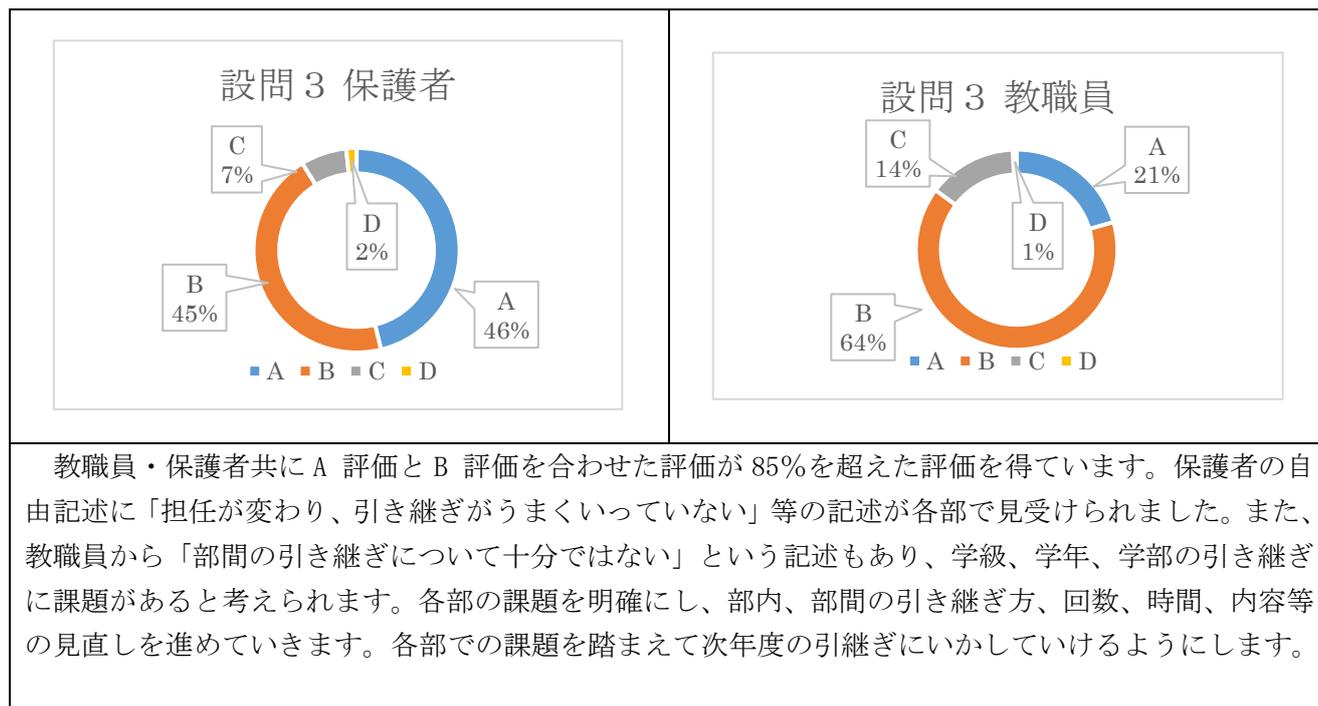
教職員・保護者共に A 評価と B 評価を合わせた評価が今年度も 95% を超え、概ね良好な評価を得ています。保護者の C 評価と D 評価を合わせた評価は、ここ数年横ばい傾向ですが、保護者の自由記述に「障がい特性への理解が十分ではない」との記述が複数ありました。また、職員から「基本的な知識を研修等で更に学んでいく必要がある」と記述がありました。支援室と研修体制や日々のサポート体制について検討し、全ての教職員が特別支援教育に関する知識や支援方法が確実に身につくことを目指していきます。また、経験に応じた研修ニーズに対応できるように、校内の研修だけでなく、校外の研修も積極的に参加し専門性を高めていきます。

設問2 学校は、個別の指導計画を作成し、それに基づいて適切な指導、支援をしていると思いますか。

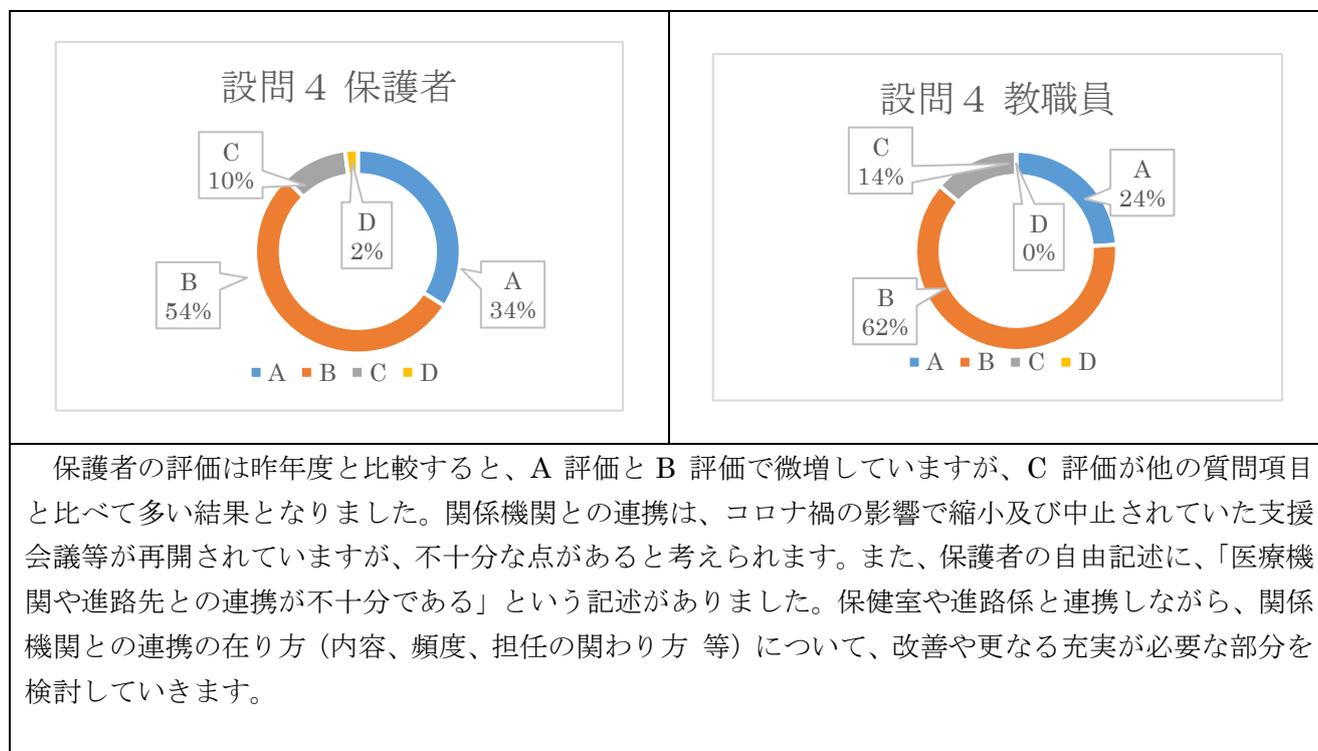


保護者の A 評価と B 評価を合わせた評価は 98% と高い評価を得ています。昨年度から校務支援システムを活用した個別の指導計画に変更し、保護者と学校間で児童生徒の実態や指導支援の具体について共有できるものとなっていると考えられます。一方で、教職員の A 評価が保護者に比べて毎年低い評価となっています (保護者 66%、教職員 19%)。作成した個別の指導計画が授業に活かせるよう、個別の指導計画の更なる活用について研修体制や日々の情報共有の在り方を検討していきます。

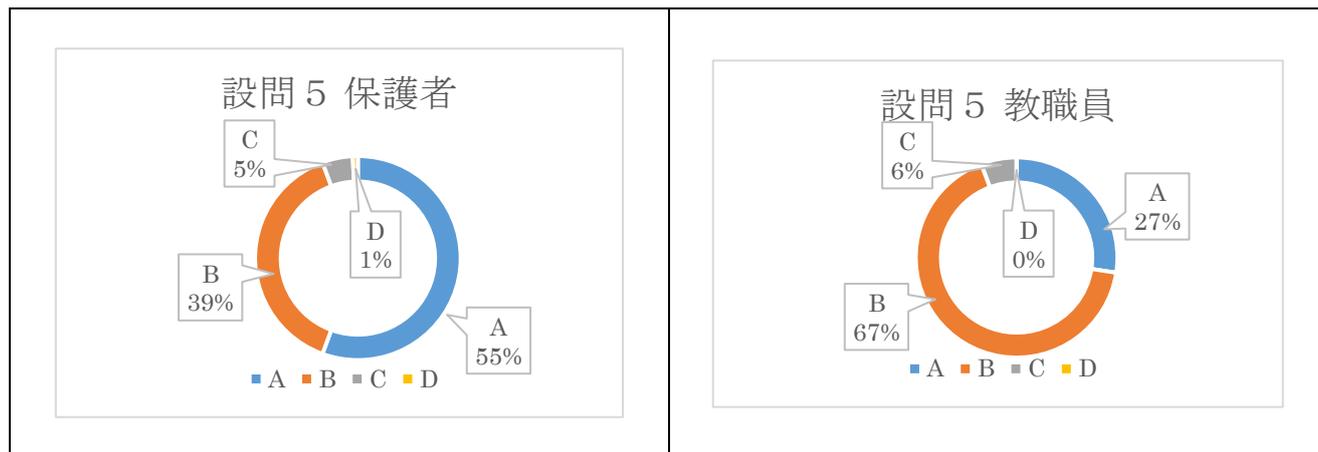
設問3 学校は、前年度の学級や学部からの引き継ぎが適切になされ、連携した指導、支援を行っていると思いますか。



設問4 学校は、家庭・地域・関係機関（市町村の福祉関係機関、支援センター、ハローワーク、医療機関、児童相談所等）と有意義な連携を行っていると思いますか。

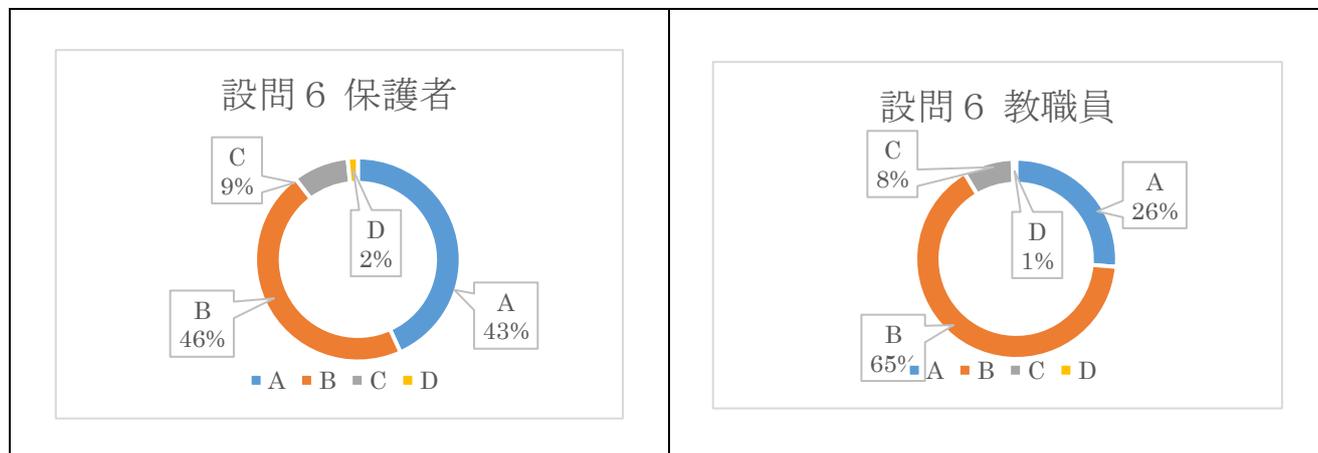


設問5 児童生徒は、学校生活を通してその子なりに基本的な生活習慣（あいさつ、身辺自立、性に関する事等）が育っていると思いますか。



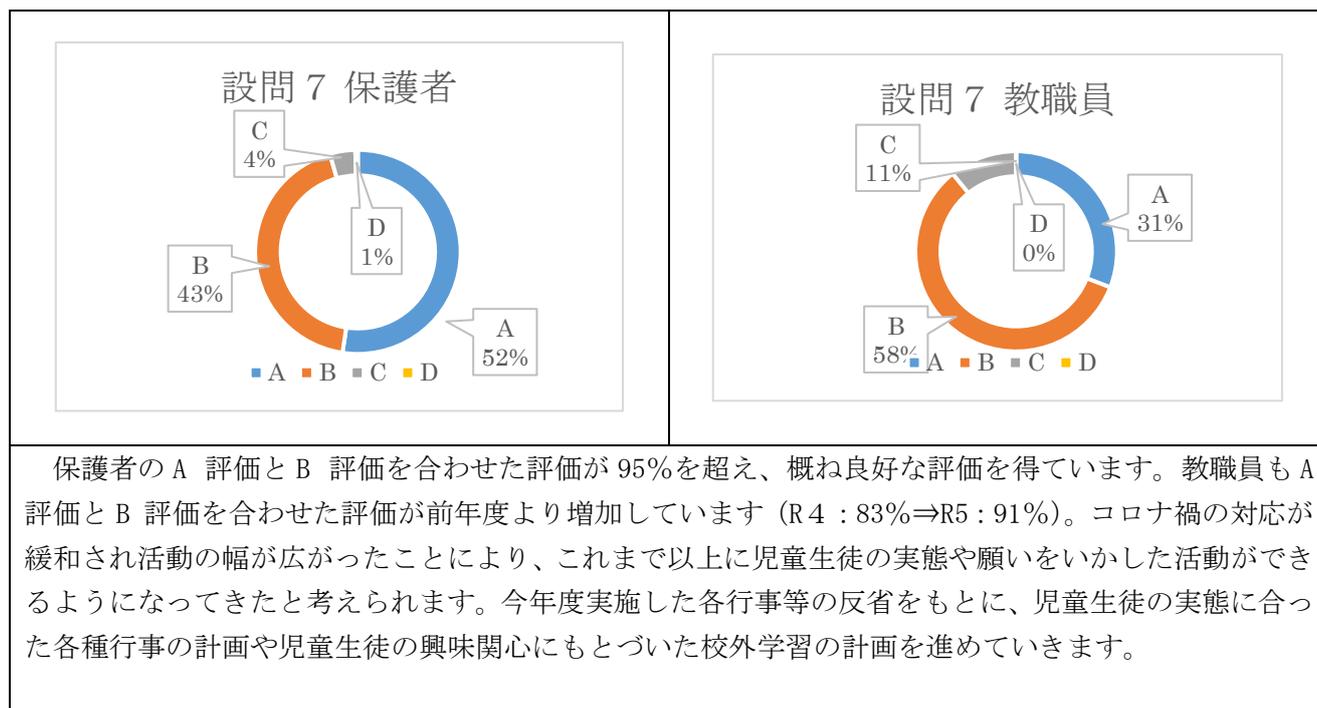
保護者、教職員共に A 評価と B 評価を合わせた評価が 94%を超え、概ね良好な評価を得ています。保護者の A 評価が 50%を超えており、児童生徒の基本的な生活習慣の成長を感じている一方で、教職員の B 評価が 67%、A 評価が 27%となっています。児童生徒の基本的な生活習慣について、具体的にどのような場面で、どのような支援によって、どのような育ちがあったかを保護者と共有できるように更に工夫していきます。また、「性に関する指導」については、現状は各部ごとに児童生徒の実態に応じた指導をしていますが、部間でも確実に引き継がれるよう、学校全体として指導支援の方向性を検討し、保護者及び教職員間で共有できるように進めていきます。

設問6 学校や家庭における悩みなどを気軽に相談できる体制が整っていると思いますか。

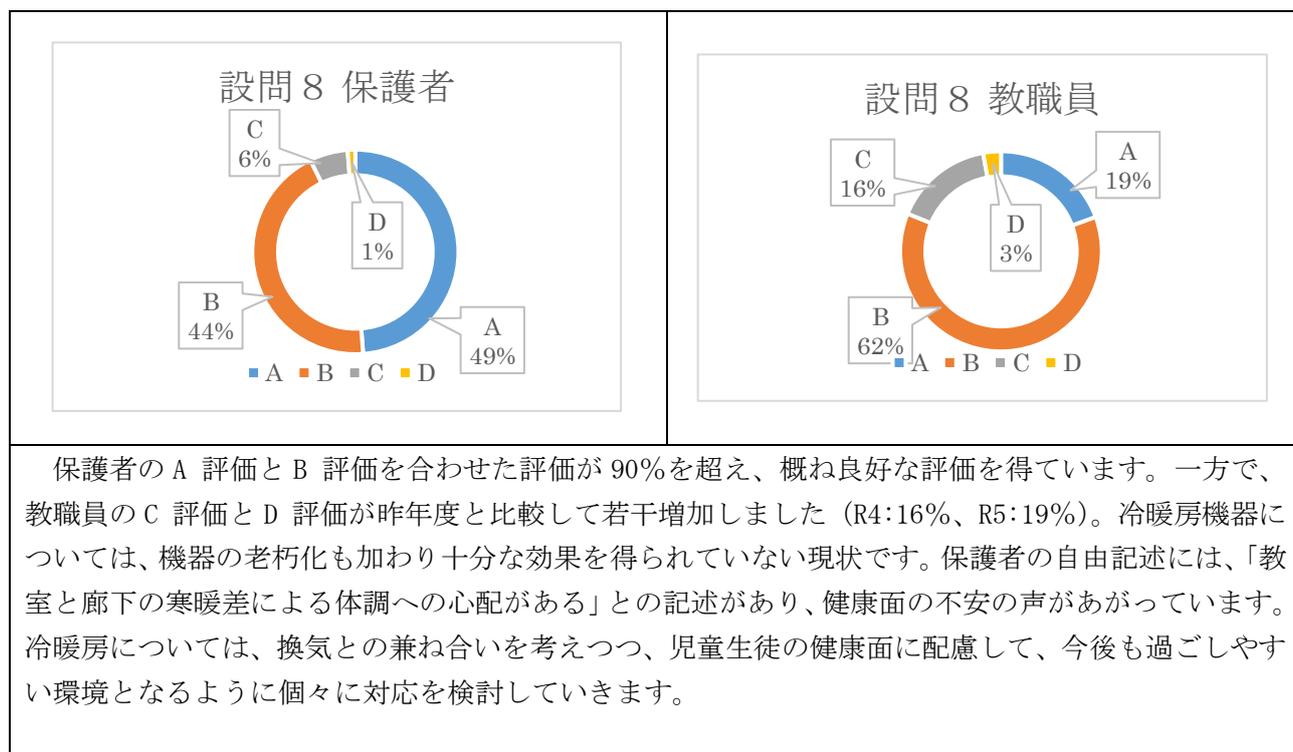


保護者の A 評価と B 評価を合わせた評価が 3年間継続して改善傾向にあり、概ね良好な評価を得ています。保護者の A 評価が 43%に対して教職員の A 評価が 26%であり、保護者と教職員の評価との間に差があります。保護者の自由記述に「保護者同士の集まり」を希望する声がありますが、コロナ禍の影響で直接会って話す機会が減少し、今年度も懇談会等の機会は減ったままです。各部での参観日の在り方を検討したり、PTA 役員の皆様と保護者間の情報共有の場の在り方を検討したりし、次年度の体制を工夫していきます。

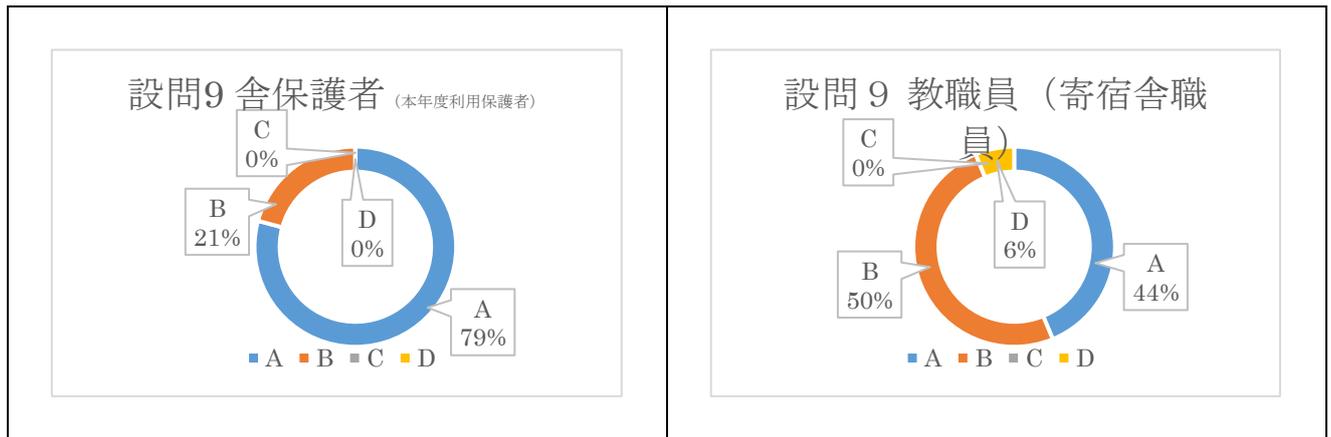
設問7 交流や宿泊行事、校外学習は、児童生徒の実態にあったものになっていると思いますか。



設問8 学習環境（学校の施設・設備、教室環境など）は、児童生徒にとって生活しやすいものになっていると思いますか。

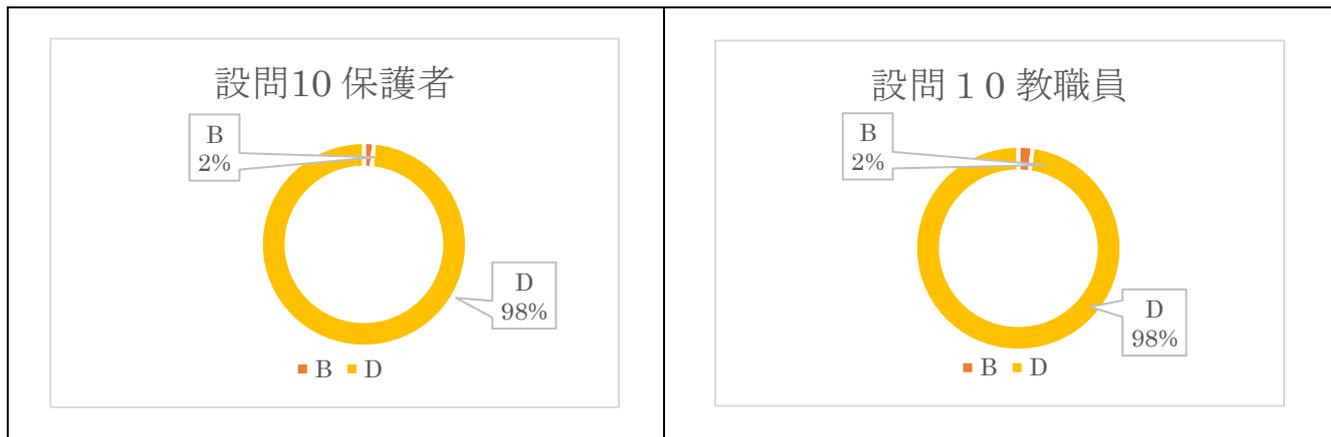


設問9 寄宿舎では、舎生にとって安心安全な環境を整えたり、温かい支援が行われたりしていると思いますか。



保護者の A 評価と B 評価を合わせた評価が 100%となり、良好な評価を得ています。継続して安全な環境づくりや丁寧な支援に努めてきていることが評価されていると考えられます。引き続き、寄宿舎生にとって安心、安全、快適な寄宿舎運営を行っていきます。

設問10 今年度、あなたのお子さんが体罰をされたということを見たり聞いたりしたことはありますか。



保護者・教職員ともに B 評価（ある）が昨年度より若干増加しています。また、自由記述に、「教職員の児童生徒に対する言葉の使い方が気になる」という記述があります。言葉の使い方によって、不適切な行為になることを重く受け止め、具体的な内容については全校で確認いたしました。また、教職員の指導支援について、自分で振り返ったり、互いに指摘し合ったりができるよう、今後も非違行為防止研修等を継続して行い、人権感覚を磨き続けていきます。

3 寄宿舍アンケート（寄宿舍を利用している保護者アンケート）

設問1 寄宿舍の職員は、生活年齢や障がい特性に配慮し、専門知識を活かした指導を行おうと努力していると思いますか。

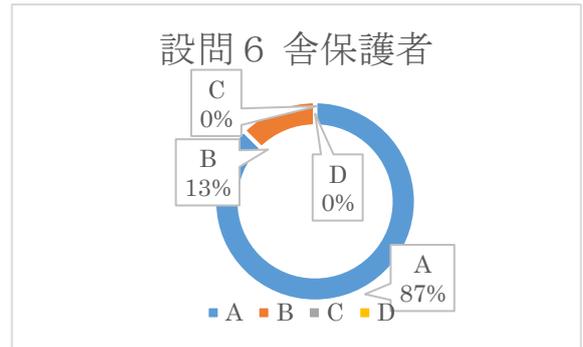
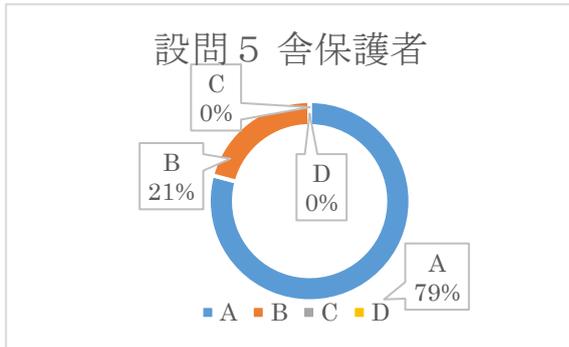
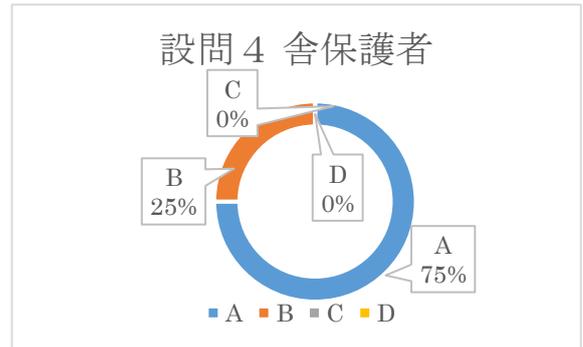
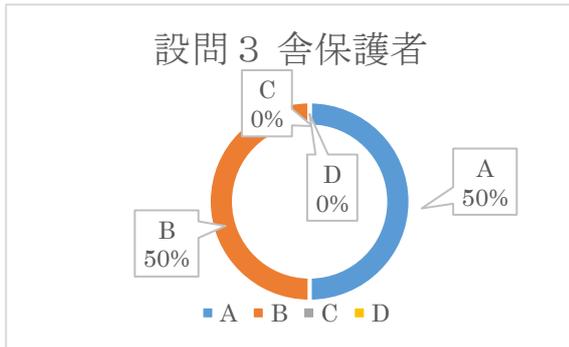
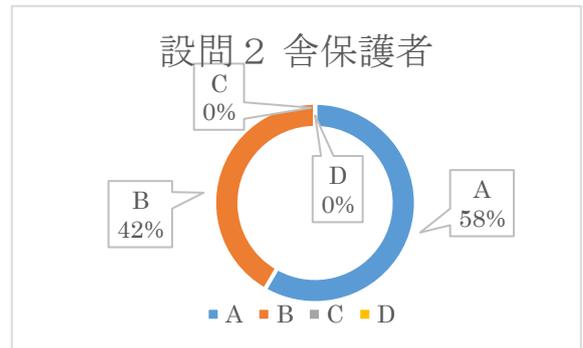
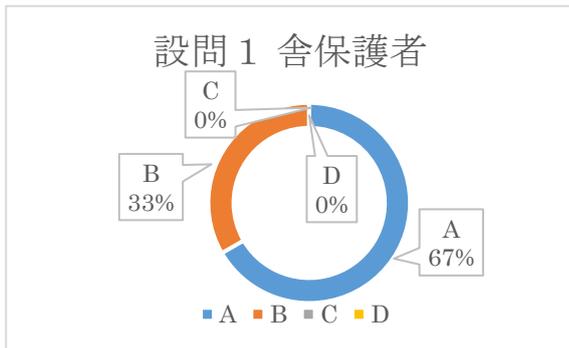
設問2 寄宿舍では個別の指導計画を作成し、それに基づいて適切な指導、支援をしていると思いますか。

設問3 日々の連絡や個別懇談、参観等を通じて、支援の共通理解がもてていると思いますか。

設問4 寄宿舍での生活を通して、その子なりに基本的な生活習慣（あいさつ、身辺自立、性に関すること等）が育っていると思いますか。

設問5 寄宿舍の施設・設備・舎室等は、児童生徒にとって安心安全で生活しやすいものになっていると思いますか。

設問6 寄宿舍では、プライバシーに配慮した同性介助の徹底がなされていると思いますか。



【考察】

全ての設問においてA「そう思う」、B「だいたいそう思う」の合計が100%であり、概ね良好な評価を得ています。その中でも設問2（個別の指導計画の活用）では、「A そう思う」の評価がR4:71%→R5:58%と減少しました。また、設問3（日々の情報共有）では、「A そう思う」の評価がR4:63%→R5:50%と減少しました。本年度から校務支援システムの導入により個別の指導計画の形式が変更となっていたことも影響していると考えられるため、形式に合わせた伝えやすい記述を検討していきます。また、保護者との情報共有については、個人が所有しているタブレット端末に動画や写真を入れて共有する等、これまでの文面や口頭による情報共有に新たな手段を加えることも検討していきます。